

8. ^{75}Se -Methionine によるスキュンで診断しえた 肝癌転移病巣

箕輪 孝美 黒木 哲夫
門奈 丈之
(阪市大・3内)
中村 健治 吉田 梨影
西村 美輝 池田 穂積
越智 宏暢 玉木 正男
(阪市大・放)

眼球突出を初発症状とした悪性腫瘍の原発巣及び転移巣の診断に際し、 ^{75}Se -Methionine によるシンチグラフィが非常に有用であった症例を報告した。症例：49才，男性，主訴：左眼球突出，既往歴：慢性肝炎，現病歴：S49年12月に左眼球突出出現，副鼻腔の悪性腫瘍疑いにて耳鼻科に入院。S50年1月頃より，左側胸壁に第6肋骨を中心とした腫瘍形成を認めるようになった。眼窩部，胸壁腫瘍部の生検を施行するも組織学的に確診が得られなかった。 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -S.C.による肝シンチ上，肝右葉に欠損像を認めた。続いて腫瘍シンチの目的で ^{75}Se -Methionine によるシンチを施行したところ，先の肝欠損部にRIの強い集積がみられると共に，胸壁腫瘍部，更に左眼窩部にも強いSelenomethionine の集積が認められた。以上の所見より肝，眼窩，胸壁腫瘍は同一組織由来の腫瘍であり，肝癌とその眼窩，胸壁への転移と考えた。剖検の結果，肝腫瘍部は胆汁産生を示す成熟型肝細胞癌であり，眼窩腫瘍部は肝癌の眼窩周囲の骨，眼窩内，前頭洞への転移巣，更に胸壁腫瘍は肝癌の第6肋骨への転移巣と確認した。肝細胞癌の場合，原発巣はもとより転移巣の探索にも ^{75}Se -Methionine によるスキュンが有効であり，転移巣の早期発見にその全身スキュンニングが必要であろうと考える。

9. $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -Sn-Colloid 肝シンチグラムが術前診断 に役立った一症例

寺西 香里 三浦 芳文
宮尾 賢爾 大塚 昭男
鈴木 昭三 小関 忠尚
(京都第二赤十字病院・内)
竹中 温 山下 渉
徳田 一
(同・外)
山田 親久
(同・放)

患者は31才の男性で，既往歴に左前腕複雑骨折，内痔核手術あり。主訴は左上腹部腫瘍で，血液学的検査及び生化学諸検査に異常はみとめなかった。入院時腹部触診にて，左肋骨弓下4横指腫瘍を触知し，境界明瞭，表面平滑で圧痛はなかった。注腸透視，腎盂撮影で結腸，左腎の圧排像をみとめた。 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -Sn colloid 肝シンチグラムで，脾腫が描出され， ^{203}Hg -MHP 脾シンチグラム左側面で，腫瘍は巨大な space-occupying lesion としてあらわれ脾実質は描出され，下方をしめていた。腹腔動脈造影にて，左上腹部全体を血管の少ない大きな腫瘍がしめ，脾動脈は下方に圧排伸展され，毛細管相では，腫大した脾陰影の他に円形の avascular な部位をみとめた。手術にて摘出された腫瘍は，巨大単房性で総重量2400gであり，内部には黄色の漿液を700cc入れていた。組織学的には，内壁には内皮細胞，石灰沈着はみとめられず，仮性嚢腫と考えられた。既往歴より，原因として外傷性のものと推定した。

10. 副腎スキュンの有用であった症例

長谷川義尚 中野 俊一
(大阪府立成人病センター・RI科)
山本 智英
(同・内分泌)
筆本 由幸 城 忠文
(同・循環動態)

原発性アルドステロン症を中心とする9例につ